

海上安全セミナーを開催

当協会は2016年3月23日、海運ビルにおいて「海上安全セミナー」を開催し、当協会会員をはじめ、関係省庁や海事関係団体・企業など約80名の参加を得た。

セミナーでは2名の方が概略以下の講演を行った。

「中国経済の現状と今後の展望」

沈 才彬氏（中国ビジネス研究所代表、多摩大学大学院フェロー）

中国経済は、経済減速により鉱工業生産の低迷等景気下振れ圧力がある中、個人消費は自動車や住宅など堅調に推移。

2016年のGDP成長率政府目標は、7.0から6.5%に引き下げられた。6.5%は可能と見ている。景気の減速は続くが失速はない。政府は財政出動、金融緩和、インフラ投資においてリーマンショック時以上の対応を示している。

中国経済は今後5年間で正念場を迎える。2020年までの5か年計画で年平均6.5%以上の成長率を掲げているが、その実現は非常に厳しい。自動車、住宅の2大エンジンは牽引力不足、労働力人口の減少で人口ボーナス喪失、製造業の設備過剰是正など、さらにCO2削減目標（18%減）もあり、困難が待ち受ける。

海運に関しては、石炭輸入量の減少が著しく、鉱工業生産設備は今後整理が求められるので、ばら積み輸送ではしばらく厳しい状況が続く。



「アラビア半島周縁部の安全保障問題」

村上 拓哉氏（中東調査会研究員）

①サウジアラビアとイランの直接衝突、②イエメンにおける武装組織の台頭が、アラビア半島周縁部の海上輸送路の安全を脅かす可能性がある。サウジアラビアとイランは、1月にイランが聖職者ニムル師を含む47人を処刑したことに端を発し、サウジがイランとの国交を断絶するまでに関係が悪化、今も改善の見込みはない。

一方、イエメンでは、「アラブの春」に影響を受けたデモを発端として政権が不安定になり、これにサウジ、イランが介入し、代理戦争の様相を呈している。紛争の長期化によりアルカイダが台頭し始めており、これが混乱に乗じてイエメン南部を抑えた場合、アデン湾の海上交通に影響する可能性がある。



【講演資料】

「中国経済の現状と今後の展望」(沈 才彬氏)

※ご参考：[中国ビジネスフォーラムご案内](#)

「アラビア半島周縁部の安全保障問題」(村上拓哉氏)

※(講演タイトルをクリックすると資料をダウンロードできます)

当協会では、海上安全・環境保全を最重要課題と位置づけ、その一環としてこうしたセミナーを継続的に開催し、情報の提供・共有に努めていくこととしています。

以上